

平成 22 年 6 月 25 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 22 年 6 月 25 日 (水曜日)

午後 3 時 30 分から午後 4 時 20 分まで

2 場 所 旭岡中学校 会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委員 内藤 博子 委員 羽賀 友信

委員 中村 美和 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 野口 正巳 教育総務課長 若月 和浩

学務課長 武樋 正隆 学校教育課長 小野田 信子

子ども家庭課長 矢沢 康子 保育課長 佐野 勉

中央公民館長 葦澤 豊 中央図書館長補佐 廣田 恭子

科学博物館 山屋 茂人 教育センター所長 山岸 文夫

学校教育課主幹兼管理指導主事 島倉 昭弘 学校教育課主幹兼管理指導主事 関谷 祐二

学校教育課主幹兼管理指導主事 山田 修

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 長谷川 雅泰 教育総務課庶務係長 新沢 達史

教育総務課庶務係 小川 瑞穂

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 58 号	附属機関委員の委嘱について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 6 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、内藤委員及び加藤委員を指名する。

日程第 2 議案第 58 号 附属機関委員の委嘱について

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 58 号 附属機関委員の委嘱について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 議案第 58 号 附属機関委員の委嘱について説明する。長岡市立図書館条例第 16 条の規定により図書館に長岡市図書館協議会を設置している。そこでは、図書館の運営や図書館方針に関する事項を審議し、館長に意見を述べることとなっている。その委員は教育委員会が委嘱する委員 10 名以内で、任期は 2 年となっている。今回、現在の図書館協議会委員が 6 月 30 日をもって任期が終了するため、新たに 10 人の委員に委嘱したいものである。新たな委員の委嘱期間は平成 22 年 7 月 1 日から平成 24 年 6 月 30 日までの 2 年間となる。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 公募の方がいるが、公募はどのようにしているのか。

(廣田中央図書館長補佐) 今回は再任であるが、市政だよりで広報し、図書館職員で面接をし、選んでいる。

(大橋委員長) かなりの人数が希望するのか。

(廣田中央図書館長補佐) 初回のときは6人応募があり、その中から2人選出した。年2回の協議会で、2年で4回出席してもらおう。公募の委員については、昨年度からの委嘱したため、今回は公募せず、再任とした。

(加藤教育長) 各課それぞれに各協議会や委員会を持っているが、しっかり諮問をしてもらうことや、結論を出してもらうことを示してほしい。ただ開催して年に数回会うだけではなく、せっかくの協議会であるので、活用できるように意識してほしい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。まず、6月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局から説明を求める。

(野口教育部長) 6月議会が6月16日から始まっている。最終日が29日の日程である。常任委員会は6月22日から今日までであり、そのうち文教福祉委員会は22日火曜日に終了している。参考に各常任委員会の委員名簿を配付した。今年度の文教福祉委員の委員は、市民クラブから池田委員、小熊委員、加藤委員、長谷川委員、民成クラブから小坂井委員、佐藤伸広委員、しんし新政クラブから永井委員、無所属の会から大平委員、公明党から中村委員、日本共産党長岡市議団の細井委員の10人である。今回の議会における教育関係の一般質問と委員会の質問について説明する。まず、一般質問は全部で14人から質問があり、そのうち教育委員会関係が6人で、いつもに比べて少し多めであった。最初に藤井達徳議員からは子どもの読書環境の充実に向けた取り組みについて5項目の質問があった。次に、細井良雄議員からは予防医療の充実について3項目あったうちの1つ、補助制度についての質問があった。次に山田省吾議員からは小・中一貫教育について2項目の質問があ

った。次に笠井則雄議員からは1点目に総合計画についてで、全体で5項目の質問があったうちの1項目について、例をあげての子育て支援の質問があった。2点目に子育て支援策について、5項目の質問があった。次に桑原望議員からは青少年文化センターについて5項目の質問があった。次に大平美恵子議員からは長岡市子育て応援プランに見る次世代育成の取り組みについて3項目の質問のうち、2項目の質問があった。このほか次代の親の育成と、若者のキャリア形成支援と教育の推進についての中で、市民協働部が所管する仮称まちなかキャンパスと商工部が所管する若者サポートセンターにおける役割について、それから大きな項目の3つ目として子育てと仕事の両立支援についてという質問があった。続いて22日に行われた文教福祉委員会の質問項目である。加藤委員は私学助成制度の内容と今後の方向性について質問があった。次に永井委員は米百俵賞にもっと教育委員会がかかわるべきと思うがどうかという質問があった。2点目にいわゆるモンスターペアレントの対応について、3つの視点からの質問があった。中村耕一委員は順動丸のシャフトについて3つの質問があった。また一般質問であった小・中一貫教育について、さらに細かく4項目の質問があった。細井委員は子育て応援プランについて細かいが6項目の質問があった。大平美恵子委員からは、1点目に学校給食の民間委託の手続きについて4項目の質問があった。2点目に介助員・特別支援介助員の処遇について3項目の質問があった。3点目に就学援助の相談状況について、生活保護の相談状況と関連付けての質問があった。長谷川一夫委員は、1点目に国の教育施設整備予算削減による長岡市への影響について質問があった。2点目に子ども手当での支給に関連して2つの視点からの質問があった。3点目に授業時間確保のために入学式の日を早めて、統一した日できないかという質問があった。4点目は複式学級の現状をふまえての検討状況について質問があった。小坂井委員からは青少年文化センター室内温水プールの廃止に伴い利用団体から出された要望書にどのように対応していくか質問があった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 小・中一貫について、山田議員の質問の答弁について、中村委員も議会で聞いたうえで、委員会で質問をしているのか。

(野口教育部長) 一般質問を受けて、細かい質問をしている。会派が違っても、同じ

テーマで一般質問が出ることもある。

(加藤教育長) 長岡市としては小・中一貫について、小・中学校を建物で統一する、9年間のカリキュラムを作るという指示は出さないと答弁した。長岡市は小・中一貫ではなく小・中連携として取り組み、委員会でモデル校の設定や、また各学校でも連携をそれぞれやっている。長岡版のやり方がないか探っている状況である。中1ギャップについて、学校が変わる、新しい友達、新しい先生、新しい教科等の出会い、新しい部活動があって、多少の困難はあると思う。しかし、それに挑戦することは必要と答弁し、議員も納得していた。すべての困難を排除し、いたれりつくせりするのではなく、ギャップを生かしていく方法はないのか探っている。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成22年度学校・子どもかがやき塾 夢企画事業内容について、事務局の説明を求める。

(小野田学校教育課長) 学校・子どもかがやき塾はそれぞれの学校が、創意工夫し、学ぶ意欲を育む授業を計画してもらうため、裁量予算を学校の規模に応じて配分しているが、その他に夢のある事業を企画した学校にさらに追加で配分するもので、その実施校が決定したので報告する。小学校は21校が応募し、そのうち14校を夢企画事業として決定した。中学校は13校の応募があり、7校に決定し、追加配分を行う。中身について、例えば黒条小学校は来年度100周年を迎えることから、来年に向けフラワーロードを整備するもの、表町小学校は学校の創立からこれまでの歴史を調べて昔歌われていた「栄光への賛歌」の演奏にチャレンジするなど、それぞれ地域、特色を生かした事業を企画している。企画自体も評価し、また2回、3回と応募しているが選ばれていない学校にも配慮したり、地域も考慮して決定している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 追加配分の金額の違いは何か。

(小野田学校教育課長) それぞれの学校から申請があって、確認し配当している。

(内藤委員) 寺泊小学校の「とびだせ、海の子、寺泊の子」について、以前寺泊小学校を訪問した際に、海が近くにあっても出ることはほとんどないと聞いて驚いていた。地域の特色である海を使った企画に、海の子はさらに海を、山の子はさらに山を知ることにつながるとうれしい。

(小野田学校教育課長) 寺泊小学校は海だけでなく、西谷小学校と交流し山にも行く企画になっている。

(加藤教育長) 西谷の子には、ある程度の人数規模でやることの楽しさも知ってほしい。子どもかがやき塾だけで4,000万弱の予算、さらに「夢企画」の予算がある。子どもかがやき塾は1校平均40万の予算で行っているが、この事業は数年たち、どのように予算を使っているのか確認したところ、半分は報償費が多いようだ。その他にバスの借り上げ、備品の購入とのことである。実際、年度末に返金もある。そういう学校は担当に任せたままで管理職は把握しておらず、返金となっているようである。学校全体として関わってほしいと思っている。

(大橋委員長) 小学校21校、中学校14校の応募があったとのことだが、昨年と比べて増えてきているのか。

(小野田学校教育課長) だいたい同じである。何年も続けて同じ学校に追加配分することはできないと考えるが、その点を学校も考慮している。2年連続で配分があった学校は応募しないというところもある。また、夢企画で選ばれなかった学校には夢先生や他の企画で配慮している。学校がやる気になって提案をしているので、できるだけいろいろな形で配分をしている。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成22年度地域・子ども元気塾助成事業団体について、事務局の説明を求める。

(小野田学校教育課長) 地域・子ども元気塾は、学校ではなく地域の団体、NPOの団体の子どもに対して元気ができるような、学ぶ意欲を引き出すような企画に対し助成する事業である。羽賀委員も選考委員になってもらっている。「自然・科学・社会・文化・芸術分野」で9団体の応募があり、結果的に9団体に助成を決定した。プレゼンテーションをしてもらい、中身を審査し決定した。「スポーツ・レクリエーション分野」については、スポーツ振興課で同じように審査を行い、2分野あわせて20団体に助成を行う。助成額については、20万円を限度に助成することとしている。内容については、例えば青葉台のよさこいキッズは単に踊るだけでなく、エコロジーとして古着をはっぴに作り変えて踊ったり、エコロジーの標語コンテストに応募したり、フリーマーケットに出展したりと「エコとよさこい」という事業である。また、ぷれジョブ青葉台・関原については、障害のある子どもたちに社会

性を養ってほしいとしてマンツーマンで付いて企業へ行き、掃除などの作業を一緒にしてくるものである。半年ごとに場所を変え、協力してくれる企業のリストもあるとのことだった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。次に平成 21 年度麻疹予防接種実施結果について、事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 昨年度のはしかの予防接種の実施結果がまとまったため報告する。はしかについては、はしか撲滅運動として全国的に力を入れている予防接種である。特に、第 3 期、4 期、中学 1 年生相当、高校 3 年生相当については、昨年度から 5 年間全国一斉に実施している。この接種を 5 年間することで、1 回しかしていない世代が 2 回することになり、免疫がつくことになる。長岡市の結果は、95%が目標であるが、第 1 期から 3 期については、目標を超えた。第 4 期、高校 3 年生については、91.2%で目標まであと 112 人接種する必要があった。特に中学 1 年生について、同じ教育委員会ということで、摂取していない子どもに対し、学校と連携を図り手紙を渡したりしたことで、目標を達成できたと思う。来年度、目標達成できるよう呼びかけを行っていく。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。次に青少年健全育成のつどい「元・オリンピック柔道選手 古賀稔彦さん講演会」について、事務局の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 例年の取り組みであるが、社会を明るくする運動の一環として講演会を実施している。今年は 7 月 14 日にリリックホールコンサートホールにて古賀稔彦さんをお招きし、「夢の実現」についてお話をいただく。柔道団体にも呼びかけをしており、今現在入場整理券は 200 枚ほど出ている。この講演会は保護司会と共催しており、経費も折半している事業である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。次に文芸講演会「長岡が生んだ伝説の古書店主 反

町茂雄氏の人と業績」の開催について、事務局の説明を求める。

(廣田中央図書館長補佐) 反町茂雄氏は長岡市出身で、東大卒業後、昭和2年に神田の古本屋に住み込みで働き、その後昭和7年に独立し「弘文荘」を開店した。その販売方法が独特なもので、目録により販売をした。今回、中央図書館エントランスに展示している目録もその際に作成されたものと思われる。千代田区立千代田図書館所蔵のものを借用し、展示している。7月5日の講演会は、今回の展示に併せて反町氏の最後の教え子であり、ご自身も神田で古本屋を営んでいる八木壯一氏から講演いただく。反町氏は長岡市に多くの郷土資料を寄贈されており、反町茂雄文庫として保存している。これらの資料にはご自身で作成された目録等の詳しい解説がついており、目録も価値があると評価されている。そのお話も八木氏からお話いただけたらと思う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。次に栃尾美術館「大山治郎コレクション」の開催について、事務局の説明を求める。

(廣田中央図書館長補佐) 7月3日から9月12日まで栃尾美術館で開催するもので、今準備を進めている。大山氏は大阪でお生まれになり、幼い頃に両親を亡くされその後、三条市に移られたと聞いている。その後燕市で会社を創業され、地場産業の発展に大変貢献されている方である。ご自身でものづくりに必要な感性を磨くために、美術作品の収集を始め、それが膨大なコレクションとなっている。今回は、日本画、洋画等50点借りて展示する予定である。関連事業として、ご本人による作品解説が5回、チェンバロ演奏会やミュージアムカフェを予定している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に協議報告はないか。

(大橋委員長) これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に与板小学校と旭岡中学校を訪問した。また、与板小学校では大矢紀画伯の絵画教室を見学した。委員の皆さんの意見、感想はいか

がか。

（中村委員） 与板小学校は、大矢先生が体育館で6年生全員に絵画指導をしていた。実際に子どもの作品を見て、筆を借りて色の作り方なども指導しながら、みるみる間に先生の作品になっていき、そういう場面を直接見ることができ感動した。奥行きのある風景を書いていたが、立体感を出すのが難しいという印象を受けた。みんな体育館で地べたに座り真剣に書いていたのが印象的であった。旭岡中学校は、わかりやすい話をしてもらい、校長を主軸に先生方スタッフが一丸となり、チームワークを大切にしていると感じた。15周年目の学校とは思わせない、伝統や成果が出てきている。地域、小学校との連携として吹奏楽部の演奏会を各小学校で行っているという話はとてもすばらしい。目覚しい活躍を目の当たりにして、感動した。

（内藤委員） 与板小学校では大矢先生が伝えている言葉を、子どもたちが必死になって聞き取り、先生の手動きを真剣に見ていた。指導者の言葉はすごく大きいと感じた。何人かの子どもの絵を見ていたが、机だけを描いている子どもに、「みんなと違う絵を描いているのは、みんなと違う発見をしている、すばらしい。」と、大矢先生が指導をしていた。きっと指導された子どもは絵が好きになっていくだろうと感じた。旭岡中学校では、小・中連携を大事にしていることは、柿小学校に行った時にも話を聞いていた。ぜひ、先生方の連携も大事にしてほしい。懇談会では、1年目の先生が多かったので、長くいる先生の声も聞きたかった。中学生になるといろいろなトラブルがあると思うが、チームワークを大切に、先生全員が承知、周知して、子どもたちへ返して行ってほしい。

（羽賀委員） 与板小学校では、最後のまとめで大矢先生が話された言葉が印象的で、「自然は師」はいい言葉だと思った。「勉強は一生で、学ぶことで心が豊かになる」ということを一流の方が伝える、また、地域から出た先達が子どもにつながる、ふるさとを愛する気持ち、誇りに思うことに通じる、非常にいい授業で感心した。旭岡中学校は昨年来て話をしたが、校長先生以下本当にチームワークがいい。私は続けてきたことが伝統とは考えていない。これから続いていくものも新たな伝統になると思う。よき伝統をこれからも続けてほしい。

（加藤教育長） 大矢先生については、今日は大河津小学校にも指導に行っていたが、亡き平山郁夫先生の後継者としての先生の立場、すごさを子どもたちは

知らない。いつかまた指導してもらえているかもしれない。最後に発表をした代表の子が、「これから絵を描く自信になった」という言葉を聞いて安心した。旭岡中学校は、新しい学校で、設備が整っていると感じた。

（大橋委員長） 与板小学校では、大矢紀先生とお会いしたことが、私自身の勉強になった。大切なのは感性で、自然が師であるということ。また五泉の牡丹を朝の4時から夜の7時までずっと描き、これを52年続けている。これが本物と驚いた。毎年行きたいという心がすごいと思った。併せて、与板の子どもは幸せと感じた。これからもずっと継続してほしい。旭岡中学校は、出来上がった頃来ただけであったため、どのような感じかと思っていた。懇談会ではほとんどの先生が1年目ということで、これからは大切と感じた。校長の経営方針、「愛・夢・感動」について、チームワークと心の教育は非常に素晴らしい。先生方それぞれ明快に話をされ、学年主任や生徒指導の話聞いて、これなら大丈夫と強く感じた。

（大橋委員長） これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員